

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

秦代出土文字史料の研究

Study on the Excavated Manuscripts of the Qin Dynasty

2. 研究代表者氏名

宮宅 潔

MIYAKE Kiyoshi

3. 研究期間

2016年4月-2021年3月(5年目)

4. 研究目的

中国湖南省龍山県里耶鎮で戦国時代から漢代にかけて使用された都城遺跡が発掘され、そこから秦の行政文書を中心とする簡牘史料（総計 38,000 余簡）が発見されたのは、2002年のことであった。簡牘には始皇帝（秦王政）25年（前222）から二世皇帝2年（前208年）までの紀年が現れる。里耶鎮は湖南・湖北・重慶市が接する境界付近の、険しい山間部に位置するが、始皇帝による東方六国の征服（前221）の後、この山深い離郷にも郡県制の網の目が及び、秦帝国の統治下に組み入れられたことを物語る。本研究班は、この貴重な史料を会読形式で精読し、中国古代帝国の統治制度やその実際のありように迫ることを、主な目的とする。これと併せて、岳麓書院所蔵簡の会読も進めている。こちらの史料は、2003年に湖南大学岳麓書院が香港において購入した盗掘簡である。すでに5部の報告書が出版され、第4・5部の報告書には律令条文が収録されている。この法律史料を併せて精読し、如上の目的を達成する一助としたい。

In 2002, a city remain from the Zhanguo period to the Han was excavated at the town of Liye, Longshan, Hunan province, over 38,000 strips and boards were discovered here. These strips comprise administrative documents, dated from 222BCE to 208BCE. It follows that the area around Liye, a small mountain village located near the boundary among Hunan, Hubei, and Chongqing, was incorporated into the Qin administrative system after the unification by the First Emperor. In this project, we will read this manuscript closely, investigate the political system of the early Chinese emperor and its reality. In addition to the Liye discoveries, the Qin strips of unknown place were smuggled to Hong Kong and repatriated by the Yuelu Academy of Hunan University in 2003. Several parts of

this material have been already published, which comprise the calendars and the records of judicial process during the Qin. The photos and transcriptions of the Qin statutes and ordinances among these strips will also appear soon. Utilizing this material, we intend to achieve our above-mentioned goal.

5. 研究成果の概要

まず岳麓書院所蔵簡《秦律令（壹）》の会読を進め、約 300 簡を読了した。その成果は「訳注稿 その（一）～その（三）」として、『東方学報』誌上に発表した。あわせて里耶秦簡〔壹〕の会読も行い、これについては関係論文を研究班HP (<http://www.shindai.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html>) に掲載するとともに、『東方学報』をはじめとした学術誌や、中国・武漢大学のHP「簡帛網」にも投稿し、掲載された。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

人文研アカデミーの連続セミナーとして「秦帝国の実像 同時代資料が語る始皇帝の時代」（2020年10月1日、8日、15日、22日）をオンラインで開催し、研究の一端を広く一般に向けても発信した。

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

本年度の会読分を「岳麓書院所蔵簡《秦律令（壹）》譯注稿 その（四）」として『東方学報』誌上に発表する。併せて、《秦律令（壹）》（第四冊）分の訳注に校訂を加え、再整理して単行本として刊行する。第四冊分の残りの部分の会読は、次年度から新たに組織する研究班において行う。